

2014年度版

環境活動レポート

高梁キャンパス



南あわじ志知キャンパス



岡山キャンパス



吉備国際大学

2015年9月

(対象期間:2014年4月~2015年3月)



吉備国際大学
KIBI International University

【目次】

1. 吉備国際大学の概要	1
1-1. 事業の概要	1
1-2. 建学の理念	2
1-3. 沿革	2
1-4. 組織	3
2. 環境方針	4
3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム	5
3-1. EMS取り組み対象範囲	5
3-2. EMS取り組み組織	5
4. 環境目標と実績	6
4-1. 2014年度環境目標と目標達成状況	6
4-2. 環境負荷の経年変化	7-8
5. 環境活動計画と取り組み結果の評価	9
5-1. 目標達成のための具体的活動(2014年度)	9
5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価	10
6. 環境教育推進の取り組み	11
6-1. 全学の実施状況	11
6-2. 環境関連科目の開講	12
6-3. 環境関連教育の紹介(社会科学部)	13
7. 取り組みの様子	14
7-1. 学内への周知(新キャンパスへの導入)	14
7-2. 適切なごみ分別とリサイクル化	15
7-3. 内部環境監査	16-17
7-4. 環境コミュニケーション	17
7-5. 環境美化と喫煙対策	18
7-6. EMS学生委員会の取り組み	19-20
7-7. その他の活動	21
8. 環境関連法規の遵守と違反状況, 訴訟等の有無	22
9. 環境代表者による全体評価と見直しの記録	23

1. 吉備国際大学の概要

1-1. 事業の概要

事業所名： 吉備国際大学

代表者： 松本 皓

事業内容： 教育研究機関

所在地： 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8

総括環境管理責任者： 小田 淳子（社会科学部 経営社会学科 教授）

TEL&FAX:0866-22-9387

E-mail:oda618@kiui.ac.jp

事業の規模

	単位	2011年度	2012年度	2013年度**	2014年度***
教員数	人	154	148	155	144
非常勤講師数	人	143	152	143	155
職員数	人	62	55	65	65
学部生数	人	2,012	1938	1,862	1,872
大学院生数	人	89	171	78	71
総人数*	人	2,460	2,464	2,303	2,307
敷地面積	m ²	189,513	189,513	258,362	262,344
延べ床面積	m ²	33,857	33,857	46,279	50,270

(* 通信制を含まない ** 南あわじ志知キャンパス開設 *** 岡山キャンパス開設)

キャンパスマップ



1-2. 建学の理念

学校法人 高梁学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

Mission Statement

Our aim is to maximize students' individual potential and develop good citizens in both local and international communities.

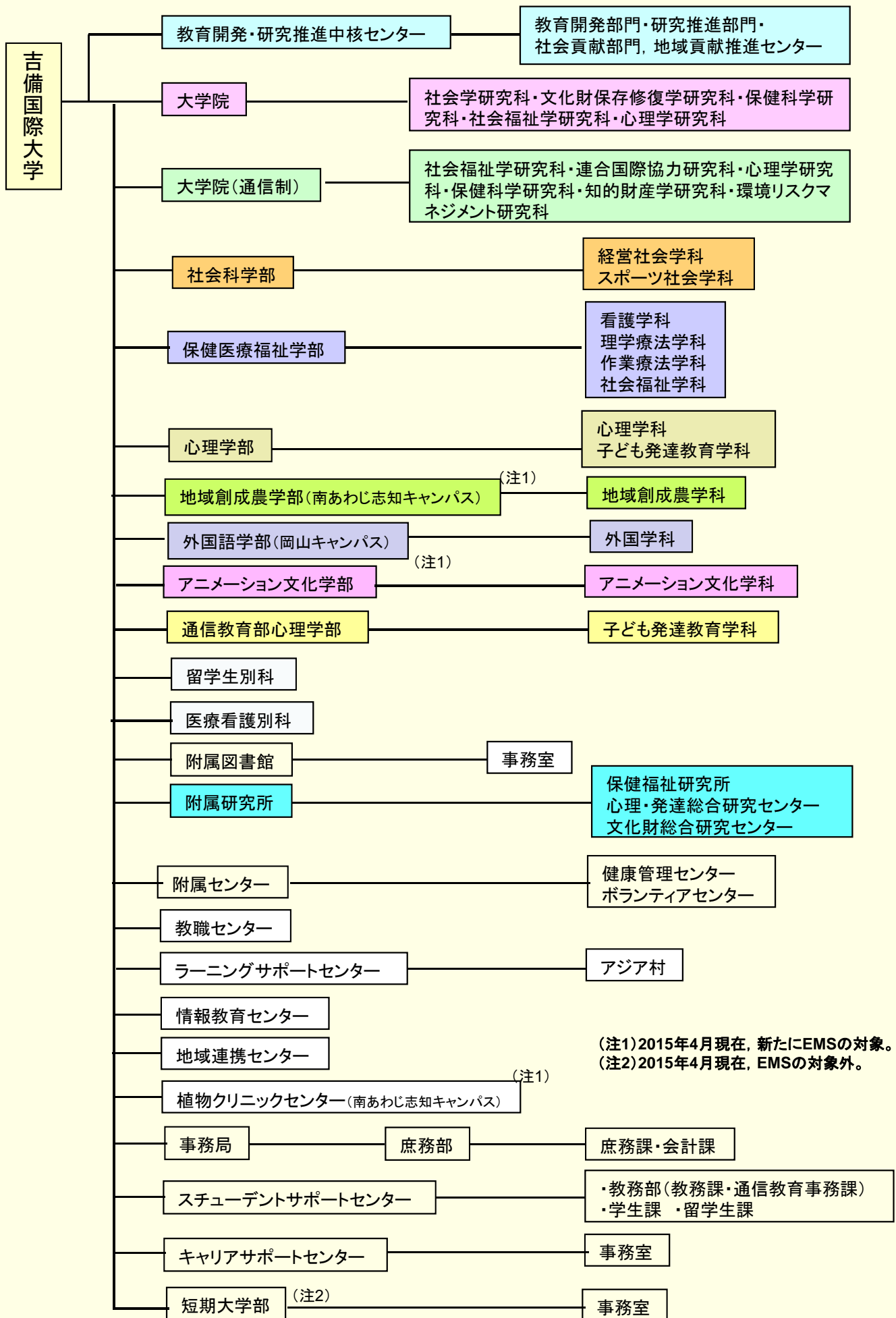
1-3. 沿革

昭和42年(1967)	文部大臣より学校法人高梁学園の設置を認可される
平成元年(1989)	文部大臣より吉備国際大学の設置を認可される
平成2年(1990)	吉備国際大学社会学部を開設
平成7年(1995)	保健科学部, 社会福祉学部を増設
平成7年(1995)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 修士課程を開設
平成9年(1997)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士(後期)課程を開設
平成11年(1999)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成12年(2000)	大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 修士課程を開設
平成13年(2001)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士(後期)課程を開設
平成14年(2002)	大学院(通信制)社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成16年(2004)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設 政策マネジメント学部を増設
平成17年(2005)	大学院 文化財保存修復学研究科 文化財保存修復学専攻 修士課程を開設 大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 博士(後期)課程を開設
平成18年(2006)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 国際協力研究科 国際協力専攻 修士課程を開設
平成20年(2008)	(通信制)保健科学研究科 理学療法学専攻 修士課程(通信制) 環境リスクマネジメント研究科 環境リスクマネジメント専攻 修士課程・(通信制) 知的財産学研究科 知的財産学専攻 修士課程を開設 国際環境経営学部 環境経営学科として開設
平成22年(2010)	「高梁学園吉備国際大学」から「順正学園吉備国際大学」へと改称 文化財学部アニメーション文化学科及び短期大学部を開設 大学院心理学研究科心理学専攻修士課程を開設
平成25年(2013)	地域創成農学部を増設 (南あわじ志知キャンパス) 社会科学部経営社会学科を開設
平成26年(2014)	アニメーション文化学部アニメーション学科を開設 外国語学部外国学科を開設 (岡山キャンパス)

1-4. 組織

(環境マネジメント活動の対象範囲)

2014年6月改訂



(注1)2015年4月現在,新たにEMSの対象。
(注2)2015年4月現在,EMSの対象外。

2. 環境方針

吉備国際大学環境方針

基本理念

吉備国際大学は、「日本人としてのメンタリティと国際人としてのセンスを兼ね備え、豊かな人間性と専門性を有する、社会に有為な個性ある人材を養成する」ことを教育目標として掲げています。この教育理念を踏まえ、教育・研究、地域貢献、国際交流などの活動において、環境との調和と共生を図るとともに、地球環境に配慮して行動することができる人材の育成を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本方針

1. 教育・研究活動及びそれに付随する活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルの推進、化学物質の削減、グリーン購入の推進に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを確立し、教職員及び学生の環境意識を啓発するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、その継続的な改善を図ります。
3. 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識の醸成に努め、地球環境に配慮して行動できる人材の育成に努めます。
4. 学内の教育・研究活動においては、環境関連の法令、条例及び協定を遵守します。
5. この環境方針を達成するため、目標を設定し、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員が一致協力してその達成を図ります。
6. この環境方針は、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員に周知するとともに、広く一般にも公開します。

2012年 4月 1日

吉備国際大学学長 松本 皓

3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム

吉備国際大学では、2008年4月にエコアクション21(EA21)取り組みを表明し、2010年5月にEA21の認証・登録をうけて以来、継続してEA21活動を展開してきました。

その後、2013年度に南あわじ志知キャンパスの開設、2014年度に岡山キャンパスの開設を迎えたことを機に、これまで構築した成果を全学的な取り組みへと発展させるため、2014年5月から独自の環境マネジメントシステム(EMS)に移行して、EMS活動を実施しています。

3-1. EMS取り組み対象範囲

1)所在地

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8(高梁キャンパス)

〒700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5(岡山キャンパス)

〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1(南あわじ志知キャンパス)

2)対象サイト

吉備国際大学 高梁キャンパス(吉備国際大学1号館～15号館, 吉備国際大学附属施設)

岡山キャンパス(1号館, 2号館), 南あわじ志知キャンパス(A・B・C・E棟)

3)活動と対象者

(1)活動

①教育 ②研究 ③オフィス活動 ④学生の活動

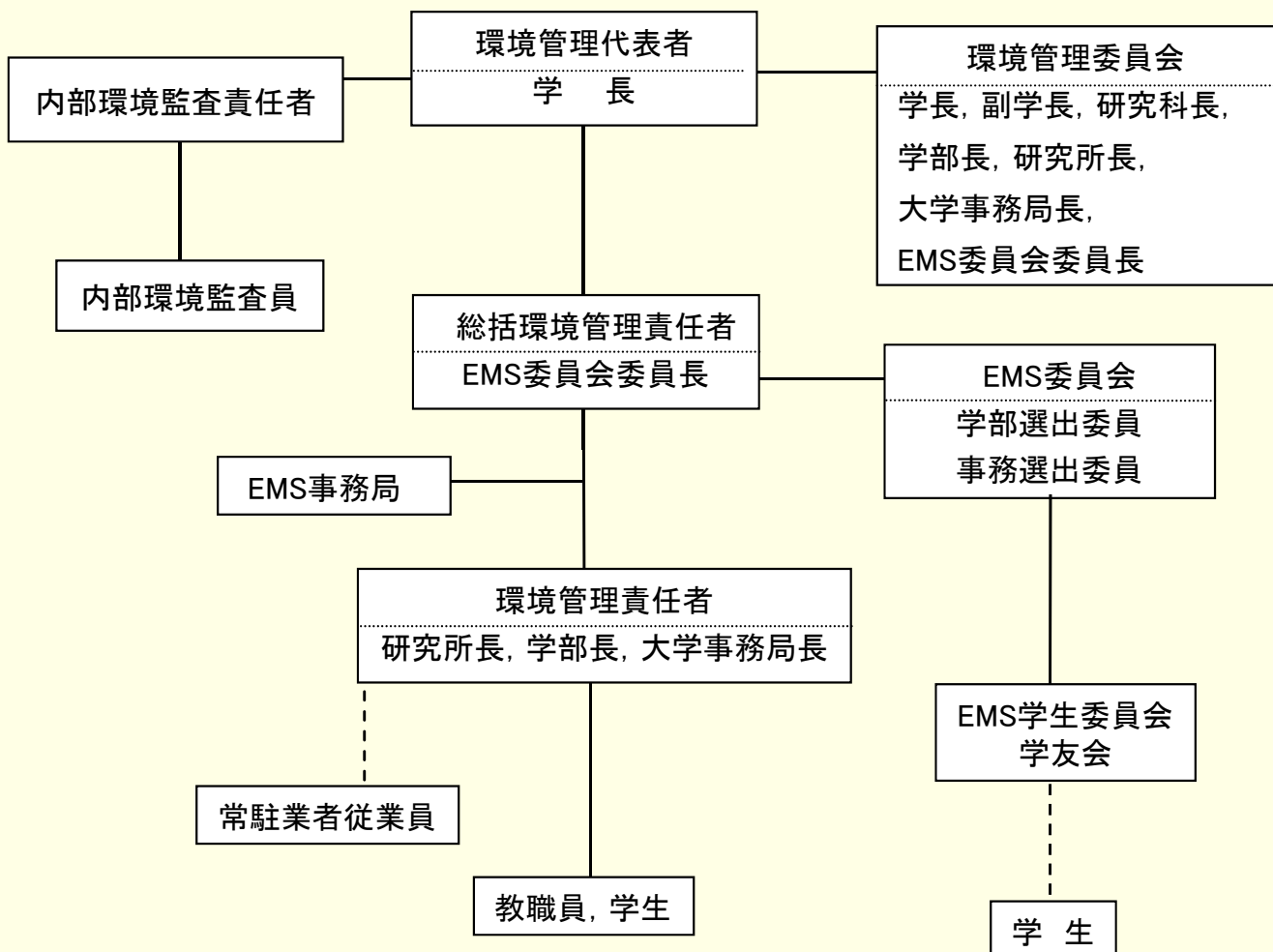
(2)対象者

①教員 ②事務職員

(3)準構成員

①学生 ②常駐業者従業員

3-2. EMS取り組み組織



4. 環境目標と実績

4-1. 2014年度環境目標と目標達成状況

吉備国際大学では、EMS活動の取り組みにおいて、「電力消費の削減、化石燃料消費の削減、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物発生量の削減、水使用量の削減、印刷用紙使用量の削減、化学物質の適正管理、グリーン購入の推進、環境教育の推進、大学周辺の環境美化」の10項目に関する環境目標を定めて、全学的に活動をしています。

2014年度は、吉備国際大学独自の環境マネジメントシステムが全学的(高梁・南あわじ・岡山の3キャンパス)に開始されました。そこで、高梁キャンパスでは、2013年度実績を基準年度として、2014年度目標を設定しました。南あわじ・岡山の両キャンパスは、学部の完成年度までデータの蓄積を進めることとしています。

下記に、2014年度目標と実績値、単年度目標および中長期目標(2014~2017年度)に対する実績評価をまとめています。全般的に目標を達成することができました。

【高梁キャンパス】

環境目標	基準年度実績 ¹⁾	2014年度目標 (基準年度比)	中長期目標 ²⁾ (基準年度比)	2014年度実績		評価 ⁴⁾ (単年度) (中長期)
		目標値	目標値	実績値	基準年度比	
電力消費の削減	2013年度	-1 %	-4 %	2,710,272 kwh	-7.2%	○ ○
	2,920,527 kwh	2,891,322 kwh	2,803,706 kwh			
化石燃料消費の削減	2013年度	-1 %	-4 %	4,570,559 MJ	-12.2%	○ ○
	5,203,481 MJ	5,151,445 MJ	4,995,341 MJ			
二酸化炭素排出量の削減 ³⁾	2013年度	-1 %	-4 %	1,802,747 kg-CO ₂	-8.0%	○ ○
	1,958,595 kg-CO ₂	1,939,009 kg-CO ₂	1,880,251 kg-CO ₂			
廃棄物発生量の削減	2013年度	-1 %	-4 %	40,666 kg	-18.6%	○ ○
	59,296kg	26,184 m ³	25,390 m ³			
水使用量の削減	2013年度	-1 %	-4 %	22,199 m ³	-16.1%	○ ○
	26,448 m ³	58,703 kg	56,924 kg			
印刷用紙使用量の削減	2013年度	-1 %	-4 %	2,359,000 枚	-7.5%	○ ○
	2,551,000 枚	2,525,490 枚	2,448,960 枚			
化学物質の適正管理	—	対象物質の保有量把握と管理強化		対象物質の保有量を各部署が記録し保管。		△
グリーン購入の推進	—	特定品目のグリーン購入比率70%以上		グリーン購入比率(文具4品目と再生紙購入)96.3 %		○
環境教育の5推進	—	年1科目以上の全学共通環境教育科目の開講		全学共通環境科目を開催		○
大学周辺の環境美化	—	月1回以上の環境美化活動		大学周辺のごみ拾い環境美化活動喫煙マナーの対策		○

注1) 2014年度より活動評価の対象範囲を見直した。新たな基準年度(2013年度)の実績は見直し施設の算定値を採用。

注2) 「中長期目標」における「中長期」とは、「2014年度から2017年度まで」を指す。

注3) 「二酸化炭素排出量」における、電力消費による排出係数については、その値を「0.551」とした。

注4) 評価の判定 「○:達成できた」、「△:ほぼ達成できた」、「×:達成できず」

4-2. 環境負荷の経年変化 (EMS活動開始年度の評価)

(1) 電力使用量の経年変化

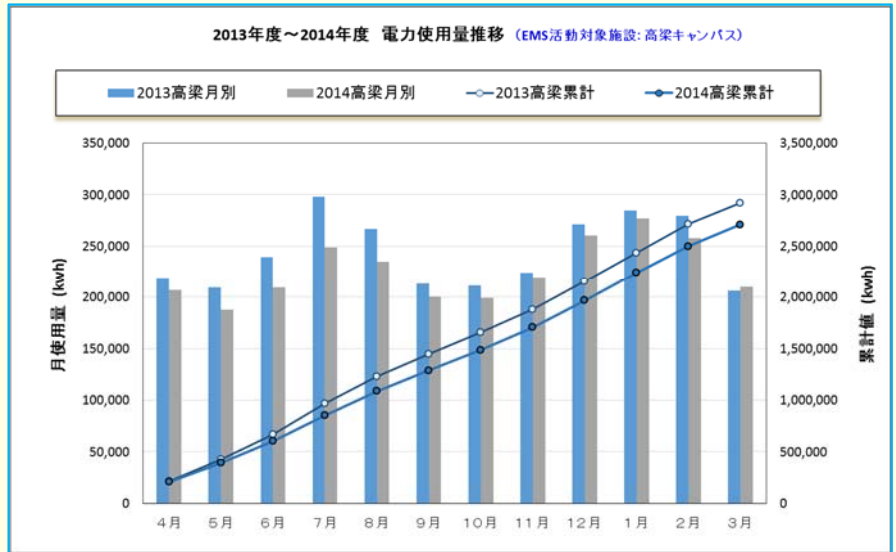
—高梁キャンパス—

「電力使用量」は、目標に対する基準年度(2013年度)に対して2014年度は-7.2%の削減が見られ、単年度目標値(-1%)を達成した。これは、月別変化において、3月を除き昨年度実績を下回ったためである。

注記:

2014年度の5月から、本学独自のEMS活動に移行したことに伴い、新たな環境負荷項目の基準値算定のため、対象施設の見直しを図りました。

本レポートの2013年度実績値は2013年度版環境活動レポートに記載のデータと若干異なる場合があります。

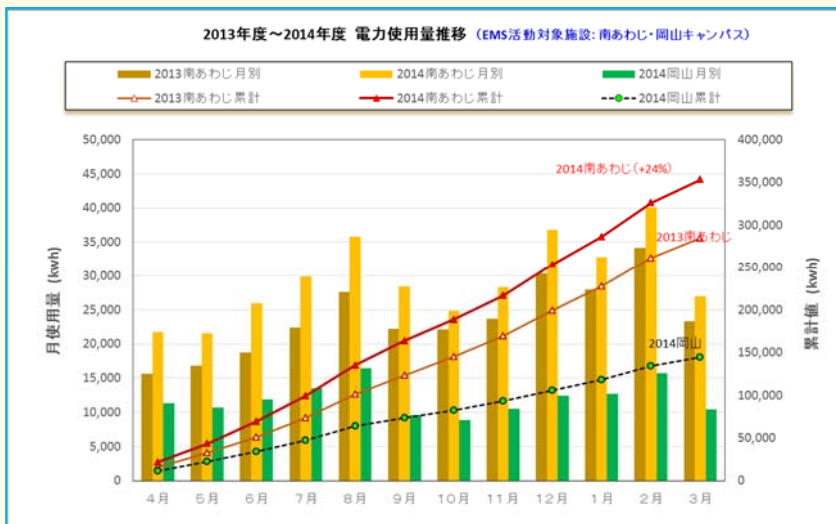


(2) 電力使用量の月変化

—南あわじ・岡山キャンパス—

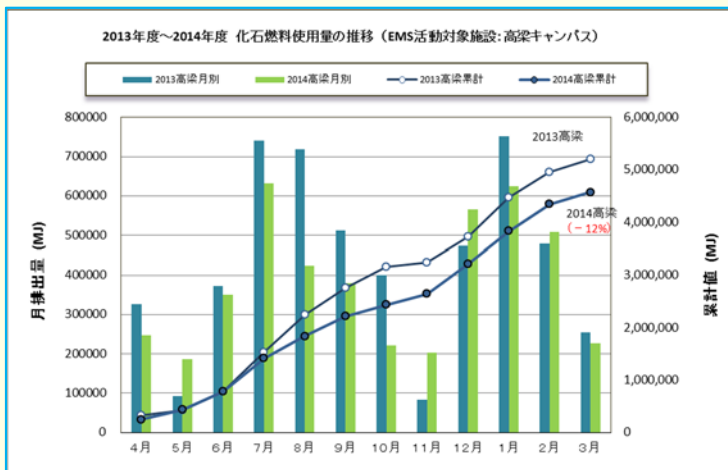
南あわじ・岡山の両キャンパスは負荷量の実績が少ないため、月別変化と2年(南あわじ)の推移をみた。南あわじの電力使用量は、2013年度に比べて2014年度は24%増加した。これは学生が2年次まで入学したためと考える。

南あわじキャンパスでは地域創成農学部が開設して2年を経過し、岡山キャンパスでは外国学部が1年めを終えるため、両キャンパスの使用量実績を継続して注視していく必要がある。



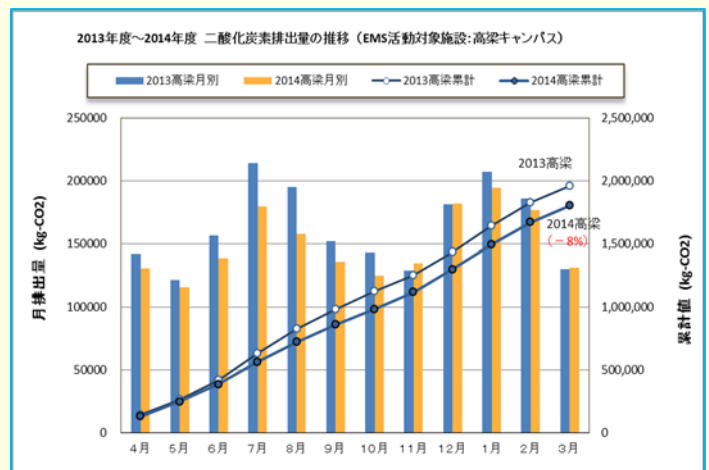
(3) 化石燃料の使用量 —高梁キャンパス—

「化石燃料使用量」は、学内で使用する灯油及びガス量の合計を示す。毎月の使用量は前年度を上回ることがあったが、2014年度累積値は基準年度比(2013年度)に対して-12%を示し、短期目標(-1%)を達成した。



(4) 二酸化炭素の排出量 —高梁キャンパス—

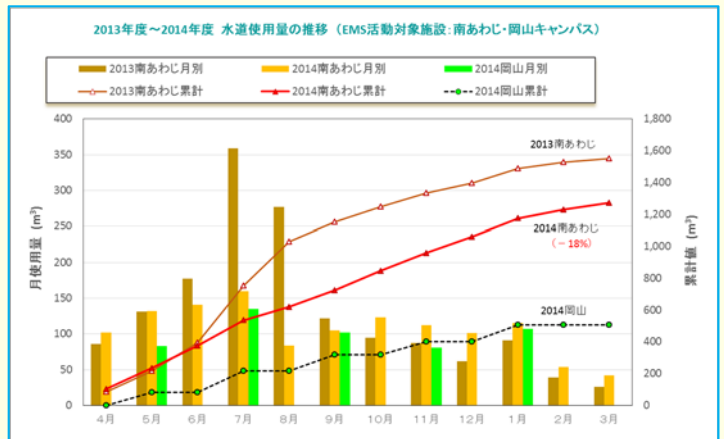
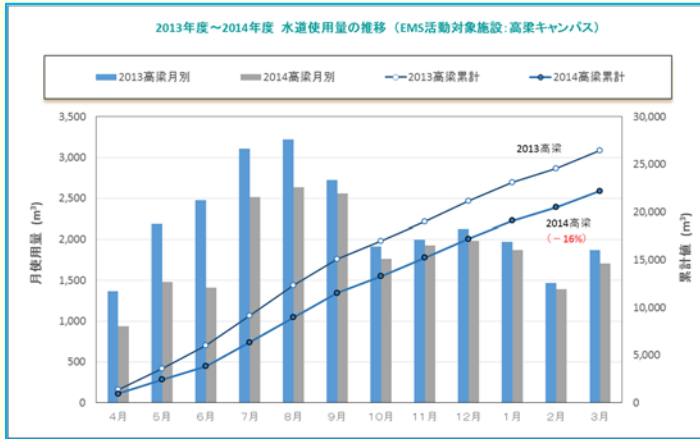
「二酸化炭素排出量」は、電力・灯油・ガスの使用量から算定した。11月と3月を除き、毎月のデータは前年度比を下回った。2014年度の累積実績は、新たに設定した基準年度比(2013年度)に対して-8%を示し、短期目標(-1%)を達成した。



(5) 水使用量の経年変化

高梁キャンパスの「水道使用量」は、新たに設定した基準年度比(2013年度)に対して、2014年度の実績は-16%であり、目標値を達成できた。

南あわじキャンパスでは、地域創成農学部の開設2年目を迎えて学生数は増えたものの、2014年度実績は前年度比-18%を示しており、EMS取り組みの効果が見られた。岡山キャンパスでは、2014年度の外国学部開設を受けて、実績値を把握した。

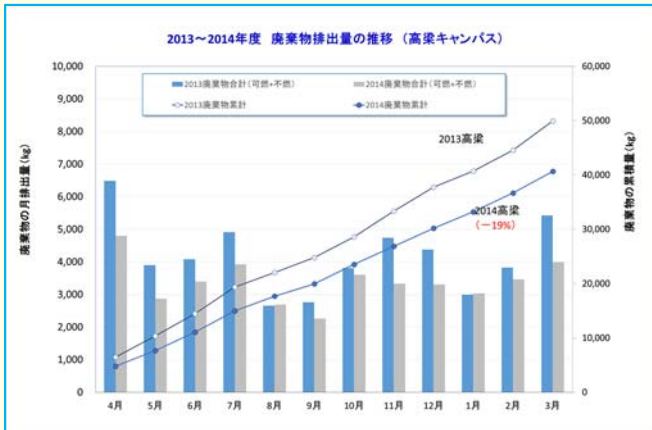
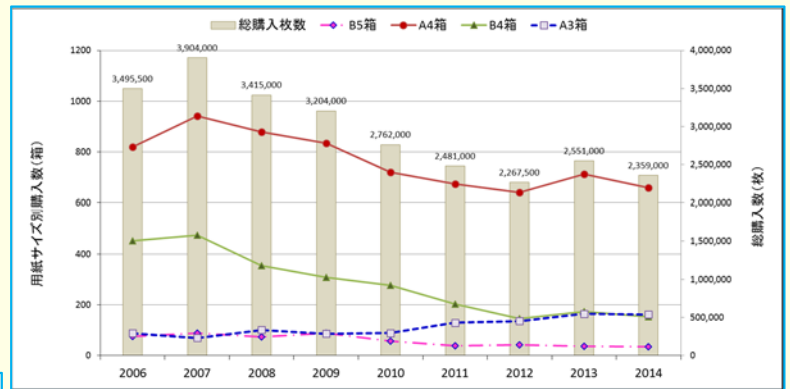


(6) 印刷用紙購入量の経年変化

—高梁キャンパス—

「印刷紙購入量」は、基準年度(2007年度)から2012年度まで順調に減少したが、2013年度は増加に転じていた。

本学独自のEMSシステム導入により、新たに設定した基準年度比(2013年度)に対して、2014年度実績は-7.5%の減少を示して、目標値(-1%)を達成できた。

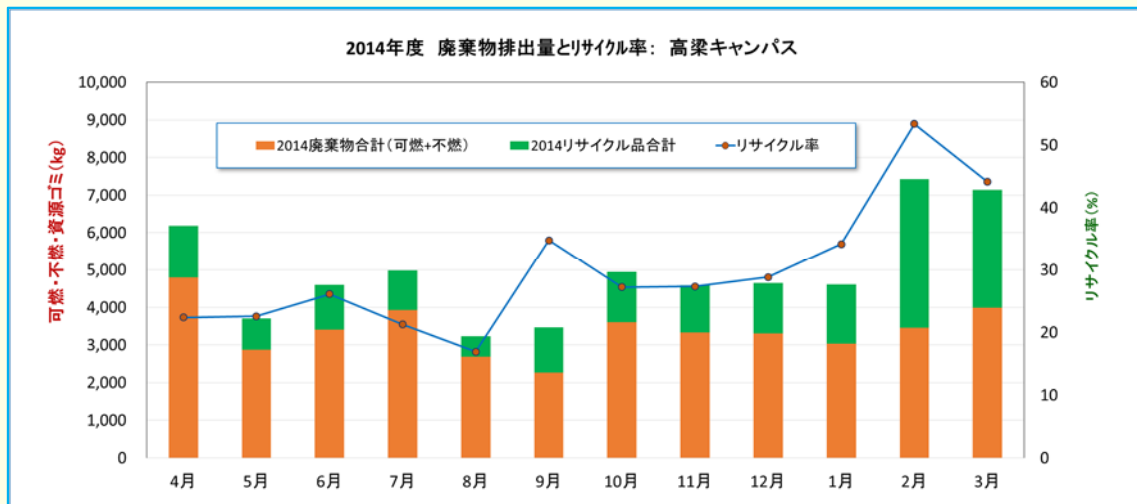


(7) 廃棄物排出量の経年変化

—高梁キャンパス—

2014年度の廃棄物排出量は、ほぼ毎月において前年度を下回っていた。2013年度実績を基準年度とする新たな目標設定では、2014年度実績が-19%を示し、単年度目標(-1%)を達成できた(左図)。

廃棄物のリサイクル率は10月から30%代を示すようになり、年度末に40%を超えた。2014年9月から、印刷用紙を含む雑紙のリサイクル化が開始されており、その成果の表れと考えられる(下図)。



5. 環境活動計画と取り組み結果の評価

5-1. 目標達成のための具体的活動 (2014年度)

吉備国際大学では、10項目の環境目標について、それぞれ具体的な目標達成手段を決め、目標達成に向けて取り組みを行っています。さらに、それぞれの目標達成手段には、具体的活動内容を定めて活動を行っています。

環境目標	目標達成手段	目標達成のための具体的活動
1) 電力消費の削減	①不在時の電気使用の防止	①スイッチ部分への消灯ステッカーの貼り付け
		②授業後教室の消灯の徹底を呼びかけ通達
		③不在時パソコンスイッチ切断の呼びかけ通達
		④パソコンへの節電ステッカーの貼り付け
		⑤消灯パトロールの実施
②無駄な電気使用の防止	①エアコン設定温度の省エネ設定揭示(冷房27°C, 暖房20°C)	
	②集中制御エアコンの運転時間管理の徹底	
	③階段使用の推奨ステッカーの貼り付け	
	④日中不要時の消灯, ブラインドの有効利用の呼びかけ	
	⑤省エネ機器の導入	
③省エネ機器の導入	①機器更新時における省エネ型機器の導入を検討	
	②建物改装時等における人感知スイッチの導入を検討	
	④節電の呼びかけ	
	⑤クールビズ, ウォームビズの推進	
	①電気使用量の現状通知	
2) 化石燃料消費の削減	①無駄な化石燃料使用の防止	①エアコン設定温度の省エネ設定揭示(冷房27°C, 暖房20°C)
		②給湯使用削減の呼びかけ
		②通勤, 通学時の公共交通機関の利用の促進
		①ガルーン配信と掲示による呼びかけ
		②電力使用量の削減, 化石燃料使用量削減活動に準じる
3) 二酸化炭素排出量の削減	①省エネルギー活動の推進	②ガルーン配信と掲示による呼びかけ
		①廃棄物管理システムの構築
4) 廃棄物管理及びごみの減量	①廃棄物管理システムの構築	①分別の呼びかけ通達
		②分別不徹底の見回り写真撮影による啓発
		③不要紙リサイクルの推進(収集方法の一元化)
		④ごみ箱の適正配置
		⑤プリンタインク, トナーの回収ボックスの設置
5) 水使用量の削減	①無駄な水使用の防止	①ごみ持ち込み禁止文書の配布
		②ごみ減量ポスターの掲示
		②節水の呼びかけ
		①食堂利用の呼びかけ
		①無駄防止ステッカーの貼り付け
6) 印刷用紙使用量の削減	①無駄な用紙使用の防止	②トイレ用擬音装置の設置の検討
		②水使用量の現状通知
		①両面印刷の活用の推進(印刷室に張り紙)
		②無駄な用紙使用防止ステッカーの貼り付け
		③授業配付資料の厳選の通知
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握	④会議資料の削減
		⑤使用済み封筒を学内便として繰り返し使用の通知
		②伝達手段のペーパーレス化
		①ガルーン利用の促進
		②電子会議の推進
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講	①種類・使用量・保管量・使用方法の把握と記録
		②有害性化学物質の表示・保管等の管理の徹底
		②安全な取扱の教育・訓練
		②環境関係授業の開講
		③委託業者への説明会の開催
9) グリーン購入の推進	①備品購入時における該当製品の購入	①学生オリエンテーション時に説明
		②教職員への説明
		③環境美化デーの設定と教職員・学生による清掃活動
		②ゼミ, サークルなどによる自主的清掃活動
		①喫煙マナーの呼びかけと掲示
10) 大学周辺の環境美化	①環境美化	②喫煙指導の実施
		②吸い殻対策

5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価

ここでは、2014年4月から2015年3月にかけて取り組んだ活動の評価結果をまとめました。

環境目標に対する取り組みは概ね達成されましたが、活動の呼びかけや記録の不十分により、未確認の項目が認められました。

2014年度環境目標	目標達成手段	取り組みの達成度
1) 電力消費の削減 2013年度比 -1%	①不在時の電気使用の防止	◎
	②無駄な電気使用の防止	◎
	③省エネ機器の導入	○
	④節電の呼びかけ	◎
	⑤クールビズ, ウォームビズの推進	◎
2) 化石燃料消費の削減 2013年度比 -1%	①無駄な化石燃料使用の防止	◎
	②通勤, 通学時の公共交通機関の利用の促進	○
3) 二酸化炭素排出量の削減 2013年度比 -1%	①省エネルギー活動の推進	◎
4) 廃棄物管理及びごみの減量 2013年度比 -1%	①廃棄物管理システムの構築	◎
	②リサイクルの推進	◎
	③外部からの持ち込み量削減	△
	④弁当ごみの削減	×
5) 水使用量の削減 2013年度比 -1%	①無駄な水使用の防止	○
	②節水の呼びかけ	◎
6) 印刷用紙使用量の削減 2013年度比 -1%	①無駄な用紙使用の防止	◎
	②伝達手段のペーパーレス化	○
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握	○
	②管理強化	○
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講	◎
	②EMS研修の実施	◎
9) グリーン購入の推進 購入比率70%以上	①備品購入時における該当製品の購入	◎
10) 大学周辺の環境美化 年1回以上の環境美化活動	①環境美化	○
	②吸い殻対策	◎

取り組み状況の評価基準

◎: 達成している項目 ○: 概ね達成できた項目 △: 一部達成できた項目 ×: 達成できなかった項目

6. 環境教育の推進の取り組み

6-1. 全学の実施状況

環境目標に掲げている環境教育の推進では、環境関連授業の開講と環境教育研修を実施しています。春学期と秋学期の終わりに、各部局の実施状況を報告してもらい、とりまとめた結果を全学的に公表しています。1人あたりの教育回数では、春学期に対して秋学期が少なくなる傾向にありました。

★ 全学で実施した「環境関連科目」

(2015.3.25現在)

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績	
		科目数	受講学生数	科目数	受講学生数
社会科学部	経営社会学科	6	96	8	125
	スポーツ社会学科	2	66	1	8
保健医療福祉学部	看護学科	2	81	1	63
	理学学科	6	596	4	223
	作業学科	3	120	2	63
	社会福祉学科	6	77	3	81
心理学部	心理学科	3	71	1	3
	子ども発達学科	2	77	2	112
文化財学部	文化修復国際協力量科	2	6	2	4
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	2	39	2	62
地域創成農学部	地域創成農学科	5	143	5	40
外国語学部	外国学科	0	0	1	10
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	—	—	1	19
合計		39	1,372	33	813
1人当たりの教育回数(学生1900人, 教職員200人で算出)			0.72	—	0.43

★ 全学で実施した「環境教育研修」

(2015.3.25現在)

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績	
		会議・オリエンテーション等	受講学生と教職員数	会議・オリエンテーション等	受講学生と教職員数
社会科学部	経営社会学科	9	32	7	59
	スポーツ社会学科	1	20	2	46
保健医療福祉学部	看護学科	4	254	1	76
	理学学科	4	225	2	110
	作業学科	1	11	1	10
	社会福祉学科	4	84	1	8
心理学部	心理学科	0	0	1	10
	子ども発達学科	3	145	2	37
文化財学部	文化修復国際協力量科	1	50	1	9
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	4	136	5	145
地域創成農学部	地域創成農学科	6	138	3	15
外国語学部	外国学科	2	30	5	52
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	9	106	9	42
合計		48	1,231	40	619
1人当たりの教育回数(学生1900人, 教職員200人で算出)			0.59	—	0.29

6-2. 環境関連科目の開講

(1) 全学環境関連科目のシラバス紹介

吉備国際大学では、大学の環境方針に沿い、環境に配慮して行動できる人材の育成を目指しています。2012年度からは全学共通基礎科目として、「環境科学」、「生命と環境」及び「人と環境」等が開講されており、全学的に環境理解教育が実施されています。

【2014年度・地域創成農学部】のシラバス

授業科目名	環境科学		担当者	科目担当教員	
年次	1	履修期	2014年 春学期	単位数	2.0
テーマと到達目標	「環境問題の構造と変容について理解する」ことをテーマとし、人間活動と自然環境の相互関係について基礎的な知識を学ぶとともに、戦前から現在までの環境問題の事例を示しながら、環境問題の構造やスケールが変容してきたことを理解する。課題解決のための企画力、自ら思考する力をつけるために、討論・発表など参加型学習を取り入れる。到達目標は、①人間活動と自然環境の相互関係に関する基礎的な知識を学ぶ、②環境問題の複雑さやスケールが変容してきた時代背景と問題の概略を説明することができる、③環境問題と農業との相互作用について説明し、その対策について、自分の見解を述べるができる、とする。				
概要	本講義は、環境問題に関する歴史や事例、法律や行政の対応、地球規模の環境問題等についてオムニバス方式で講義を行う。				
評価方法	到達目標は、①～③の3種類があり、全ての項目で一定の成果を求める。中間試験および単位認定試験では、到達目標①及び②の理解度を見る。③については、参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度により達成度を評価する。したがって、成績評価は、中間・単位認定試験(50%)、授業参加態度(30%)、課題レポート(20%)のウエイトにより評価する。				
履修条件・注意事項	事前発表については、課題作成の予習が必要である。さらに、授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。中間試験および単位認定試験では、環境問題の到達目標①、②の理解度を見るため、特に復習が必要である。到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。				
春学期 授業計画	1. 環境問題とは何か	秋学期 授業計画			
	2. 戦前・戦中の鉱害				
	3. 高度経済成長期の公害				
	4. 公害行政の強化と公害輸出				
	5. 都市生活型公害と都市アメニティ				
	6. 自然保護から生物多様性の保全へ				
	7. 生物多様性問題の今後の展開：討論				
	8. 物質循環と農業				
	9. 中間テスト				
	10. 農業と環境との相互関係				
	11. 環境問題が農業に与える影響				
	12. 農業と環境の相互関係に関する討論：事前調査と発表				
	13. 原発事故と環境問題				
	14. 地球環境問題が求める社会変革				
	15. 環境倫理／生命系の経済学				
	16. 単位認定テスト				

(2) 環境関連科目の実施状況

春学期

環境科学 消費・環境論 環境エネルギー論 環境ビジネス論 環境マネジメントシステム論 環境政策論
 ライフサイクルアセスメント 環境経済学 環境社会学 生命と環境 産業衛生管理論 文化財保存環境科学Ⅰ
 文化財学演習Ⅰ 社会開発論 環境アセスメント論 環境会計論 農業と環境 里山総合演習Ⅰ・Ⅲ

秋学期

環境倫理学 地球環境科学 環境アセスメント論 環境経営概論 環境法 環境科学 環境教育論
 環境リスクと企業経営リスク 環境モニタリング 循環型社会論 アジア環境論 環境科学 国際経済論
 生活援助論 化学 生理学実習 文化財保存環境科学Ⅱ 文化財学演習Ⅱ 教養講座 キャリア開発

6-3. 環境関連教育の紹介（社会科学部）

社会科学部では、地域資源を活用した学生教育を推進しており、地域と密着した様々な実践教育を行っています。なかでも、環境に関連した科目やゼミ活動における実践教育では、学生は課題発見・解決能力、コミュニケーション能力などを身につけることができます。

経営社会学科のカリキュラムには環境経営科目が配置され、このうち「循環型社会論」や「消費環境論」の講義では、施設見学や森林保育作業の体験学習をする機会を作っています。

スポーツ社会学科では、研究室ゼミ学生が、「高梁市魅力再発見事業：高梁すきすき探検隊」として、高梁市の小学生とともに地域自然の学びを考えるプログラムに参加しています。

循環型社会論の授業は教室で行いますが、高梁市に設置されているごみ処理施設とリサイクル施設の見学を授業に組み込んでいます。大学がある街の処理施設ということで、学生は熱心に説明を聞いています。

消費環境論を受講する経営社会学科の学生たちは、毎年、高梁キャンパス近くにある「高梁美しい森」で、間伐や下刈り等の森林保育体験を通して、森林管理の重要性と大変さを学んでいます。



スポーツ社会学科のゼミ所属の学生は、「高梁市魅力再発見事業」に参加しています。対象は小学校3・4年生ですが、これは学校の社会科のカリキュラムとあわせたものになっています。参加した学生は事前に高梁市内の候補地を下見してコースを作成し、当日の子どもたちのまとめ役を勤めます。高梁地域の自然が持っている魅力を探検していきます。



案内するのは学生の仕事です。



これも高梁の風景です。



学生が子どもたちに説明することもあります。



公園で紙飛行機作りのサポートをします。



一日のまとめを作る子どもたちに寄り添います。

7. 取り組みの様子

7-1. 学内への周知

(1) 南あわじ志知キャンパスと岡山キャンパスにEMSを導入

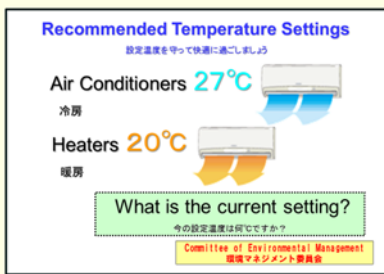
EMS活動を行うに当たり、学内の各所(階段、廊下、エレベータ、講義室、教員研究室、印刷室、各事務室等)に啓発ポスター(環境方針、室内温度設定の遵守、節水、紙の節約、ごみ減量、ごみ分別、節電、エレベーター利用の削減、喫煙マナー、PC利用節電、コピー機の主電源OFF、レジ袋削減)を掲示しています。

2014年度は、新たに南あわじと岡山のキャンパスでもEMS活動を開始したため、初めて、各所に啓発ポスターを掲示しました。特に外国学部のある岡山キャンパスには、日本語と英語で併記したポスターが掲示されています。

<南あわじ志知キャンパス> (地域創成農学部)



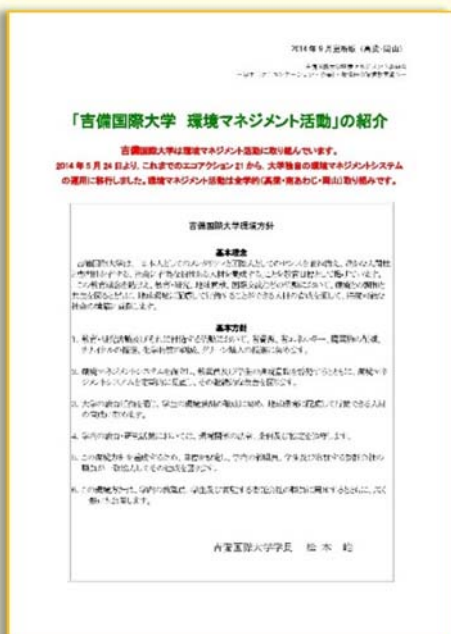
<岡山キャンパス> (外国語学部) ※英語で併記



(2) 環境教育研修資料の作成と配布

学長による吉備国際大学環境方針と啓発ポスターによる取り組みを周知するために、全教職員および学生に向けた環境教育研修の資料を作成し、オリエンテーションや各種の会議等で配布し活用しています。常駐する委託会社職員(警備担当、清掃担当、食堂および売店の職員)にも配布して、教育研修を行っています。

9月からは、喫煙マナーを盛り込んだページを追加しました。



7-2. 適切なごみ分別とリサイクル化

(1) ごみ分別の種類の変更

吉備国際大学では、ごみを6種類に分別しています。このうち4分別のごみ箱をキャンパスに設置していますが、南あわじと岡山のキャンパスでEMS取り組みを開始したことに伴い、10月から、新しいごみ分別表に変更しました。これまでプラスチックは専用分別していましたが、燃えるごみ箱に一括投入し、またペットボトルは専用ごみ箱に分別となりました。古新聞・古雑誌、雑紙、段ボール等の古紙類、乾電池やインクカートリッジも別途収集して毎月秤量を行い、全面的にリサイクルしています。



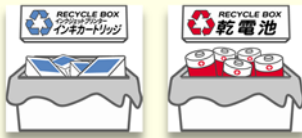
高梁キャンパス



岡山キャンパス



南あわじキャンパス



インクカートリッジ、乾電池の回収箱

分別種類	ごみの種類	注意事項	
廃棄物	可燃ごみ (プラスチック類を含む)	紙くず、食品ごみ、木くず、布類、ペットボトルのフタ、プラスチック類(弁当容器、発泡スチロール容器、レジ袋、ポリ袋類、菓子袋、トレイ)、ビデオテープ、CD	★不燃ごみを投入しないこと ★カップ種の容器など、中身をからにしていること
	不燃ごみ	割れたビン・ガラス、陶磁器類、ライター、刃物、金属類、油など汚れの落ちにくいカン・ビン	★割れたビン、ガラス類、刃物等は収集時に危険がないよう袋に入れて内容物を記載すること
資源物	カン・ビン	アルミ缶、スチール缶、スプレー缶(必ず穴をあける)、菓子缶、缶詰缶、コーヒー缶、飲料ビン、調味料のビン、コーヒービン	★容器の中身を空にすること ★PETボトルを投入しないこと
	ペットボトル	ペットボトル(液体飲料、調味料などの容器)(ペットボトルのマークがあるもの)	★ペットボトルのフタは可燃ゴミへ入れること ★容器の中身を空にすること
	古新聞・古雑誌 ざつ紙・段ボール	古新聞、古雑誌(書籍含む)、段ボール、その他の紙類(印刷物、ファイル・バインダー類、紙箱、包装紙、紙袋)ひもで十文字にきつく縛り、指定の集積場所へ	★できる限りシュレッダーにかけないでリサイクルに回すこと ★付属の金属・プラをはずすこと
その他	乾電池・蛍光管 インクカートリッジ	乾電池 → 事務室設置の乾電池入れへ インクカートリッジ → 事務室設置の回収ボックスへ 蛍光管 → 指定の収集場所へ	★不燃ごみに投入しないようにすること

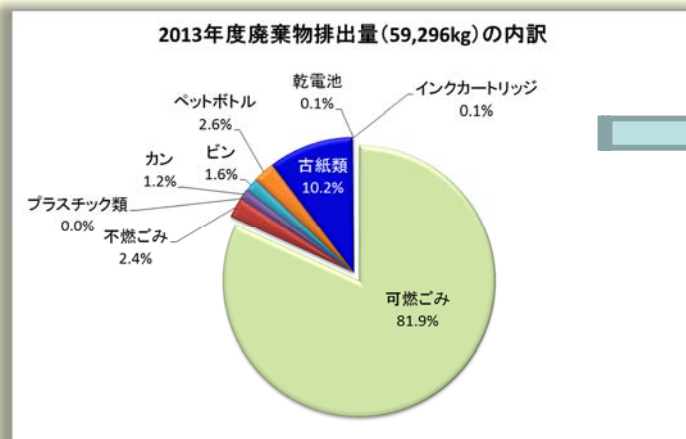
**★ごみになるものを買わない! 大学に持ち込まないを徹底しましょう。
★ごみは必ず分別して、ごみ箱に投入して下さい。**

環境マネジメント委員会

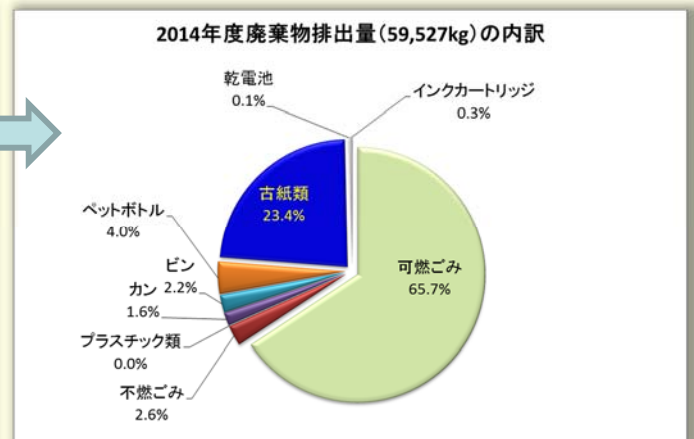
(2) 雑紙のリサイクル化

古紙類は書籍、新聞、段ボールをすでに回収・資源化していましたが、これまでプリント用印刷紙や紙箱等の雑紙類は高梁市の分別処理方式により、これまで燃えるごみとして処理されてきました。しかし、廃棄物排出量の削減とリサイクル率の向上を目指して、清掃業者との対策検討を行った結果、9月から資源化に移行しました。

2014年度の成果は可燃ごみの大幅削減(81.9%→65.7%)、びりサイクル率の大幅な向上(古紙類10.2%→23.4%)となって現れており、EMSの取り組みが一層進んだことを示しました。



(雑紙のリサイクル化: 未実施)



(雑紙のリサイクル化: 実施後)

★ 総排出量に占める資源化物のリサイクル率: 16%(2013年度) → 32%(2014年度)

7-3. 内部環境監査

(1) 監査概要

環境マネジメント活動の取り組みを評価するうえで、「内部環境監査」はEMSの基本的事項です。

吉備国際大学が運用する環境マネジメントシステムでは、環境経営システムの運用状況を中立的な立場から監査するために、「内部環境監査」を原則として年1回以上実施することが規定されています。本学ではEA21の認証登録以来、毎年実施しています。

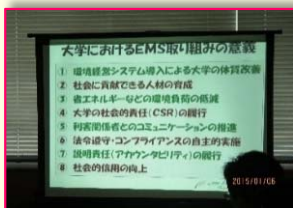
(2) 監査の方法

監査では、『吉備国際大学EMSシステム文書』中の内部環境監査実施手順書に従い、作成した監査質問表に沿って、環境目標達成の手段である環境活動計画が適切に実施されているか、その記録が保管されているかどうかについて、チェックを行いました。井勝社会科学部長から、監査員(EMS委員が担当)は事前に内部環境監査の講習を受けたのち、EMS委員1名とEMS学生委員2名が1組で、監査を実施しました。

監査実施日	2014年2月16日(月)～2月19日(木)
監査対象	7学部, 事務局, EMS委員会, EMS学生委員会
監査項目	環境マネジメントシステム, 環境負荷の削減, 環境教育の推進, 化学物質の適正管理, 大学周辺の環境美化, 環境法対応, 特別管理産業廃棄物の適正管理

(3) 監査結果

監査の結果は、概ね計画通りに取り組みが実施されていましたが、記録の提示がないなどが6件、取り組みが不十分などが10件あり、是正処置と改善が見つかりました。また、分かりやすい情報提供や環境教育・環境美化活動に関する提案意見がありました。この監査結果は3月に全学的に公表されました。



監査の事前講習を受けました。

社会科学部部の監査



保健医療福祉学部の監査



心理学部の監査



アニメーション文化学部の監査



地域創成農学部の監査



EMS委員会の監査



事務局の監査



EMS学生委員会の監査

(4) 監査による改善処置への対応

改善処置の意見があったものは、関係部局で対応を実施し、その結果を所定の様式(是正及び予防処置)にして報告が行われました。是正処置への対応結果を下表にとりまとめました。

提案等の意見があったものは、関係する部局やEMS委員会で検討し、2015年度のEMS活動に反映させることになりました。吉備国際大学のEMS活動はPDCAサイクルを基本とし、内部環境監査の結果を取り組みの改善につなげています。

2014年度内部環境監査における是正等処置が必要な事項への対応

(2015年8月25日現在)

No.	是正が必要な事項(内部環境監査の結果)	関係する部局	是正処置の時期・内容等 (関係部局の対応報告より)
1	活動記録(ファイル)の提示がない部局があった。 ・心理学部:紙・水使用の削減、化学物質管理の取り組み ・地域創成農学部:化学物質使用量の記録	心理学部 地域創成農学部	①心理学部:教授会・学科会議等で取組依頼をする。化学物質(シンナーのみ)管理表、保管場所の注意表示を設置予定。 ②地域創成農学部:内部監査時には、記録簿の作成がなかったが、4月に作成、7/9に記録簿作成済みを確認した。
2	EMS活動の掲示が不十分な部局があった。	地域創成農学部	2/18に事務担当に委託した。その後、全講義室に掲示の貼り付け完了を確認したことが7/13に委員より報告された。
3	環境教育の実施等が不十分な部局があった。 ・外国学部:オリエンテーションで環境教育の実施が少ない ・文化財学部:授業では実施しているが、オリエンテーションでの資料による実施はない	外国学部 文化財学部	①外国学部:2015年度4月のオリエンテーション時に、「吉備国際大学 環境マネジメント活動の紹介」資料に沿って、EMSの取組み内容を説明した。 ②文化財学部:EMS活動について学生への説明と協力を4/5に依頼した。(レジメ資料の記録より)
4	環境美化活動の実施が不十分であった。 ・外国学部:地域の清掃活動は呼びかけのみで参加なし。 ・全学的:環境活動計画にある環境美化デーは未設定。	外国学部 全学的	6月の部長等会議(6/10)、教授会(6/24)に周知し、各局学科の取組み内容を第3回委員会(7/16)で報告する。実施状況は監査時に確認することとする。
5	EMS活動計画に記載されている学生委員会の活動に実施不十分などところが見られた。	EMS学生委員会	EMS委員長は事前に放送原稿を確認し、必要な修正・追記等を行う。EMS活動の専用掲示板で情報提供を進める。
6	EMS委員会の取組み内容に不十分などところがあった。 ・環境負荷項目のデータ解析とその公表時期、・環境活動レポートの遅延(2013年度版)、・環境マネジメントシステム及び環境活動計画の見直しの遅れ	EMS委員会 (委員長)	ガールーンや定例教授会を通じて順次報告していく。2014年度は3月中旬に途中経過のデータを学内webの掲示板で周知した。
7	緊急事態の想定(火災、灯油漏洩、化学薬品)に対して、緊急時訓練の実施に不十分などところがあった。 ※ システム文書で緊急時の訓練等の事項は規定されているが、灯油漏洩、化学薬品は適宜実施と記載あり。	事務局 化学物質管理の学科	第3回委員会(7/16)で審議し、今後の実施スケジュールの方針を打ち出した。火災:毎年、灯油漏洩:3-4年に1回、化学物質漏洩等:毎年の実施とする。全学的に障害発生時の対応情報を公表し、関係部署は掲示を行う。

7-4. 環境コミュニケーション

(1) 内部コミュニケーション

EMS組織内において、EMS活動の情報提供を行うとともに意見を受け付ける等、双方向に情報をやりとりしています。学内ウェブシステムを構築し、学内のメール「ガールーン」やウェブ上の掲示板を利用して教職員間の情報を共有しています。用紙使用量が削減できると共に、各種連絡がタイムリーに提供されます。

文部科学省等外部からの環境配慮活動の依頼を掲示板に掲載したり、電気・水道使用量の季節別実績報告(省エネ活動レポート)、省エネルギー推進やごみ分別・減量の取り組み要請、環境教育研修の実施や報告なども、全学的にメールや掲示板を通じて行っています。

2014年度の環境コミュニケーション記録(内部)

受付日	コミュニケーション先	件名	内容の概要	対応
6月10日	警備職員	環境に関するマナー違反	建物玄関先、部活動建屋、寮への帰路、駐輪場等でタバコのポイ捨てが特に激しい。	部長等会議、教授会で学生に喫煙指導の呼びかけ
				駐輪場・部室に注意喚起のポスターを掲示する
				喫煙マナー指導資料を秋学期オリエンテーションで配付
10月12日	教員	屋内の喫煙ルーム設置の疑義	健康面から禁煙ルームの撤去の提案・要求	翌年度の施設改造で撤去が決定
10月20日	清掃職員	学内ゴミ分別の排出の悪化状況	教員研究室付近の燃えるゴミ分別箱に生ゴミが投入され、回収が困惑	部長等会議、教授会でEMS委員がゴミ排出時の配慮呼びかけを行う
10月20日	教員	喫煙場所の学生マナーの低下	苦情のあった喫煙場所で吸い殻のポイ捨てが著しい。	当該喫煙所の利用者(留学生、看護学校)の所属部局に喫煙指導の依頼。

(2)外部コミュニケーション

外部からの環境に関する苦情や要望を受け付けて必要な対応を行い、その結果を記録しています。

EA21活動を開始して以降の2009年から、環境活動レポートを毎年作成して公表しています。

2009年版(2009年10月, 2010年5月) 2010年版(2011年6月)

2011年版(2012年5月) 2012年版(2013年5月)

2013年版(2014年12月) 2014年版(2015年9月)

NPO法人エコ・リーグが実施する「エコ大学ランキング」のアンケート調査(第2回, 3回, 6回)に参加し、吉備国際大学が従来から取り組んでいる環境活動について、参加校の中での成績評価を受けました。

★総合順位ー 第2回:57位(151校), 第3回:19位(166校), 第6回:9位(88校)



環境活動レポート2013年度版

7-5. 環境美化と喫煙対策

(1) 地域創成農学部での環境美化

吉備国際大学のEMS活動では、環境目標に環境美化活動を挙げており、大学キャンパスや周辺地域の環境美化のため、授業や部活動において清掃活動等を行っています。南あわじ志知キャンパスで行われた地域創成学部の基礎演習では、学生たちが花卉の植栽を行い、美化活動を実施しました。

大学周辺の環境美化



基礎演習において補込にマリーゴールドやパンジーを定植し、キャンパス内の美化活動を行った(2014年4月16日)

大学周辺の環境美化



学生掲示板にポイ捨て防止ステッカーを設置した(2015年1月14日)

(2) 女子サッカー部による高梁市内の清掃活動

女子サッカー部の「FC吉備国際大学Charme」は、アダプトおかやま推進事業の一環で、地域の清掃活動に取り組んでいます。選手たちは順正学園ボランティアセンターで借りた火ばしやごみ袋、シダぼうきを持って、まだ冷たい水が流れる紺屋川に長靴を履いて降り、空き缶や落ち葉、ビニール袋などのごみを熱心に拾っていました。吉備女子大学女子サッカー部は、月に1度、大学周辺の美化活動に取り組んでいます(CHARMEHPに紹介)。



Charme(シャルム)の選手メンバーら約20人は、大学高梁キャンパス近くを流れる紺屋川の、清掃ボランティア活動を実施中。

(3) 喫煙対策とマナー指導

キャンパス内の喫煙による吸い殻のポイ捨てが後を絶たないため、駐輪場・クラブハウス・トイレ入り口に、禁煙防止・ポイ捨て禁止の啓発用ポスターを掲示しています。また、2014年度より、建屋内の全面禁煙を開始したことにより、キャンパス屋外での喫煙場所を明示した資料を作成しました。環境教育研修において、喫煙対策の全学的なマナー指導を図っています。



トイレの喫煙禁止ポスター(日本語と中国語で表記)



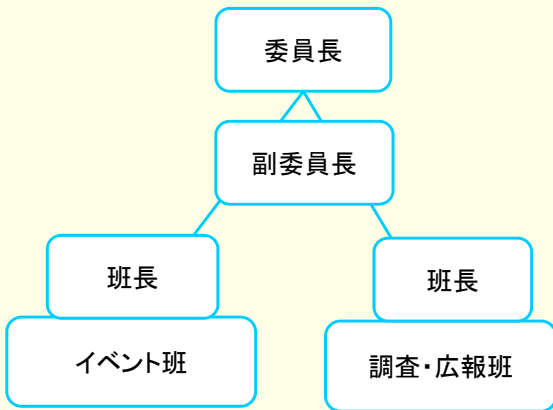
駐輪場の「ポイ捨て」禁止ポスター

7-6. EMS学生委員会の取り組み

吉備国際大学のEMS取り組み組織には、EMS学生委員会(通称:エコマネージャークラブ)が設置されており、学生委員会のメンバーを中心として、EMS活動に自主的に取り組んでいます。EMS学生委員会は、EMS学生委員長の下で2つの班に分かれており、それぞれが重要な役割を担っています。また、今後の取り組みや役割分担などを話し合うために、班での定例会を開催しています。

学生が行っている主な活動には、下表の日常的に行っている活動とエコ啓発のイベント活動があります。

(1) EMS学生委員会の組織



～日常的な活動～

◆学内のごみ残量調査

2月に一度、大学の講義室を回り、残されたごみを収集し、計量・記録。

◆館内放送による環境活動の呼びかけ

週に一度、館内放送でEMS活動への協力を呼びかける。エアコンの適正な温度設定やエレベータ使用の自粛など、改善の取り組みを放送。イベントの案内なども季節や時期に合わせて行う。

◆使用済みの乾電池・印刷インクカートリッジ・トナーの回収

学内の庶務・教務などの部署に、使用済みの乾電池や印刷インクカートリッジの回収ボックスを設置。定期的に回収し、計量・記録した後、リサイクルのための引き取りを業者に依頼する。2014年から、岡山と南あわじキャンパスでも開始している。

◆ボトルキャップの回収

学友会と協力して、PET飲料のボトルキャップなどを回収。

(2) ごみ残量調査 (高梁キャンパス)

毎月、講義室に残っているごみを回収して、ごみの種類別に重量を計測しています(下表)。

2014年度は10.58kgのごみが講義室に放置されていました。毎月ごとのデータでは、増減する月もありますが、毎年の合計比較をすることにより、着実に教室内の残渣ごみは減少していることが分かりました。



	(単位: kg)	2012年度	2013年度	2014年度	2014年度の 前年比較
4月	燃えるゴミ	1.45	1.47	1.00	-0.47
	プラスチック	0.32	0.52	0.22	-0.30
	ペット・缶	0.46	0.40	0.26	-0.14
5月	燃えるゴミ	1.38	1.18	0.72	-0.46
	プラスチック	1.00	0.24	0.45	+0.21
	ペット・缶	0.38	0.85	0.70	-0.15
6月	燃えるゴミ	1.40	1.08	0.80	-0.28
	プラスチック	0.32	0.27	0.16	-0.11
	ペット・缶	0.61	0.59	0.42	-0.17
7月	燃えるゴミ	1.70		0.00	
	プラスチック	1.00		0.00	
	ペット・缶	0.50		0.00	
10月	燃えるゴミ	1.10	1.70	1.30	-0.40
	プラスチック	0.40	0.34	0.34	0.0
	ペット・缶	0.50	1.05	0.84	0.0
11月	燃えるゴミ	0.92	0.80	0.90	+0.10
	プラスチック	0.34	0.45	0.02	-0.43
	ペット・缶	1.06	0.57	0.91	+0.34
12月	燃えるゴミ			0.67	
	プラスチック			0.10	
	ペット・缶			0.77	
1月	燃えるゴミ		1.08	0.00	-1.08
	プラスチック		0.27	0.00	-0.27
	ペット・缶		0.59	0.00	-0.59
年間 合計	燃えるゴミ	7.95	7.31	5.39	-1.92
	プラスチック	3.38	2.09	1.29	-0.80
	ペット・缶	3.51	4.05	3.90	-0.15
	合計	14.84	13.45	10.58	-2.87

(3) リサイクル活動



(4) 館内エコ放送



(5)キャンドルナイト・エコナイトの実施

★キャンドルナイトin高梁

吉備国際大学と高梁市内の3高校(県立高梁高校・県立城南高校・私立日新高校)が合同で企画した、「キャンドルナイトin 高梁」が、毎年秋頃に、市内美観地区を流れる紺屋川沿いで開催されています。

EMS学生委員会では、大学の食堂から出る廃食油と牛乳等の紙パックを使って、100%エコのキャンドルを製作しています。2014年で6回目となるこのイベントは、環境省の提唱で始まった地球温暖化防止の全国運動「100万人のキャンドルナイト」に賛同して行われるものです。また同時に、大学コンソーシアム岡山が所掌する事業「エコナイト」に連携して行っています。当日は点灯式が開会されたのち、大学生と高校生によって1000本を超えるキャンドルに一齐に火が灯されます。紺屋川の川面はオレンジ色の幻想的な空間に包まれていきます。紺屋川とキャンドルの織りなす風景を写真撮影する参加者が多数見られています。

★2014年10月17日(金)
★2012年7月28日(金)

★2013年10月4日(金)
★2011年7月14日(金)

★2010年7月9日(金)



2014年度には、10月17日(金)に開催され、晩秋の紺屋川の川面を美しく清い明かりが照らし出しました。



キャンドルナイト作り



紺屋川沿いにキャンドルを並べていく



点灯式の開会の様子



井勝学部長の開会挨拶



キャンドルの点灯式



一齐にキャンドルを点火



本学のキャンドル風景

★クリスマスイルミネーションのエコナイト

毎年12月には、学友会主催のクリスマスイルミネーションが開催されています。EMS学生委員会では、廃食油で作ったエコキャンドルを「KIUI」の文字に飾り付けて参加します。当日は、多数の参加者の足下を照らします。



7-7. その他の活動

(1) 高梁環境フェアでEMS活動の紹介

2014年10月25日(土)に、高梁総合文化会館で開催された「環境フェアinたかはし」において、これまで吉備国際大学が取り組んできたEMS活動を5枚のパネルにして展示しました。近藤市長をはじめ、参加者に本学の取り組みを紹介することができました。

<環境マネジメント活動のパネル展示>

- 1枚目: 「吉備国際大学のEMS活動の経緯・大学としての責務・環境方針」
- 2枚目: 「環境目標, 活動計画, 取り組み実績」
- 3枚目: 「地域に根ざす活動・環境教育」
- 4枚目: 「学内の啓発活動とごみ分別の推進」
- 5枚目: 「学生活動のこれまでを紹介」



環境フェアの開会式の様子



EMS紹介パネルに見入る参加者



岡山県のエコ事業所紹介のパネル



環境フェアの会場の様子。果物、魚、自然食材のメニュー等々、味覚の秋を満載。



本学のEMS活動を紹介した展示パネル

(2) 伊賀祭でEMS活動の紹介

吉備国際大学の大学祭である「伊賀祭」に、ほぼ毎年、EMS活動の紹介パネルを展示しています。大学の学生や教職員はもちろん、学外の参加者にEMS活動を知ってもらう良い機会となっています。



2011年11月5日～6日の展示状況
(EA21活動を紹介)



2014年11月1日～2日の展示(本学独自のEMS活動を紹介)

8. 環境関連法規の遵守と違反状況，訴訟等の有無

本学に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果，違反はありませんでした。また，関係機関からの指導，利害関係者からの訴訟はありませんでした。

「法規等の遵守状況の確認及び評価の結果」

区分	法規制等の名称	該当する要求事項	判定
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物の許可業者への委託	合
		事業系一般廃棄物の許可業者への委託	合
		特別管理産業廃棄物の許可業者への委託	合
	家電リサイクル法	家電等廃棄時に再商品化をする者に引き渡す	合
	資源有用利用促進法 (PCリサイクル法)	再資源化に努めること	合
	建設工事に係る資材の 再資源化等に関する法律	再資源化に努めること	合
排水	下水道法	水量，水質の変更時	合
		特定施設(教育・研究施設の洗浄施設)の設置の届け出	合
		特定施設の構造を変更した場合の届け出	合
		異常排水の排出への対応	合
化学物質	化学物質排出把握管理 促進(PRTR)法	PRTR対象物質を所定の規模以上取り扱っている場合	評価対象外
	毒物及び劇物取締法	研究のため特定毒物を使用する場合には，許可が必要	評価対象外
		盗難防止の措置	合
		飛散，漏洩，滲出，流出の防止の措置	合
		保管場所への毒劇物の表示	合
	フロン排出抑制法 ※	エアコンなどの修理，廃棄時	合
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に 関する法律(省エネ法)	エネルギー管理統括者の選解任届け	合
		毎年度7月末までに中長期計画及び提起報告書の届出。	合
		床面積2千m ² 以上(第1種特定建築物)又は床面積3百m ² 以上(第2種特定建築物)の建物の新築，改築，増築時がある場合，省エネ措置等の適用を受ける	合
		計画・実施状況の公表	合
温室効果ガス	地球温暖化対策の推進に 関する法律(温対法)	毎年度7月末までに報告。	合
		計画・実施状況の公表	合
グリーン購入	国等による環境物品等の 調達に関する法律	環境物品等の調達方針	合
※2015年4月1日「フロン回収・破壊 法」の改正・施行による			

9. 環境代表者による全体評価と見直しの記録

(2014年4月～2015年3月)

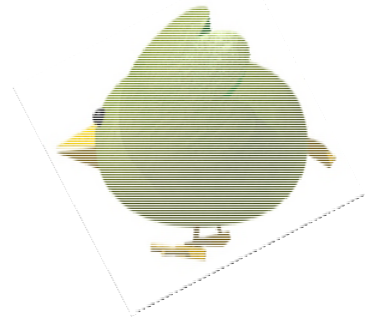
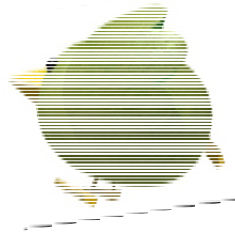
				代表者	総括 環境管理 責任者
代表者による全体の評価と見直し (適切性、妥当性、有効性の評価)		(定期見直し：毎年事業年度終了後) 実施日：2015年3月27日		松本皓	小田淳子
見直しに必要な情報				変更の必要性の有無・指示事項	
(管理責任者の報告)		(管理責任者のコメント・提案)		(代表者)	
[取り組み状況の評価結果]		[環境方針]		[環境方針]	
<p>南あわじ・岡山の2キャンパスで9月から廃棄物重量の測定、12月から取り組みポスターの掲示が開始され、ほぼ順調にシステムが導入された。環境活動計画に基づく取り組みは概ね実施され、高梁キャンパスの単年度目標はほぼ達成できたと推量される。昨年度の記録確認ができなかった「①環境教育の推進、②化学物質管理、③環境美化活動」は、①春・秋期の記録表の提出、②③全学の内部環境監査結果より、取り組みの実施状況が確認された。環境教育の推進はほぼ達成されたが、化学物質管理と環境美化活動の実施・記録に不十分が認められた。雑紙の燃えるゴミからリサイクル資源への改善、内部環境コミュニケーションで指摘されたたばこのポイ捨てに対応した。</p>		<p>・特に変更の必要なしと判断する。 ・環境方針は新たに適用範囲となった南あわじキャンパス及び岡山キャンパスに周知されつつある。新学年が増えるため、環境教育研修の実施と取り組みの推進に一層努める必要がある。</p>		<p>変更の必要はない。 南あわじと岡山の2キャンパスに環境活動が開始され、全学的に、吉備国際大学独自の環境マネジメントシステムが順調に開始されたことは評価できる。</p>	
[問題点の是正処置及び予防処置の状況]				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
<p>環境美化及び化学物質管理で、記録作成や活動の不十分な部局が確認された。次年度の環境活動計画に反映させるよう、担当部局の是正と改善が必要である。</p>					
[前回までの代表者の指示事項]		[目標・環境活動計画]		[目標・環境活動計画]	
<p>・南あわじ、岡山キャンパスは環境負荷データの把握の開始と学生及び教職員に対する環境活動の周知を進める。 ・4月以降は本学独自の環境活動の体制に移行し、環境マネジメントシステムの継続的運用と取り組み改善を図る。</p>		<p>・環境目標は、高梁キャンパスの全ての目標値で達成できた。南あわじと岡山の2キャンパスは2014年度実績を踏まえながら、経年的変化を注視していく。 ・環境活動計画の見直しをする。環境負荷や環境美化の効果を検討した、現実的な取り組み(廃棄物削減月間、環境美化デー、地域との協働清掃等)へ進める必要がある。 ・環境教育研修の機会を増やすだけでなく、EMS活動の実績を特に学生に知らしめる工夫策がほしい。 ・内部環境監査で発見された改善項目は是正処置を行い、提案意見は関係部局と委員会で検討を行い、活動計画に反映させる。具体的には、①環境教育の充実と実施記録の作成、②全学の化学物質管理の仕組みの検討、③緊急時対策訓練項目の実施スケジュールの策定、④環境負荷項目データのみえる化による全学周知など。</p>		<p>・外部審査を終了してから、策定された環境目標であったが、達成状況はまずまずの状況にあるように判断される。 ・内部審査によって発見された取り組みの課題や提案を生かして、本学の環境活動が発展することを期待したい。さらに、環境方針である「持続可能な人材育成」につながるよう環境教育の取り組みを進められたい。</p>	
[目標・環境活動計画の達成状況] ※目標値は高梁キャンパスのみ設定。 (詳細は環境活動計画書による)				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
目標項目	目標値	環境活動の	コメント		
	達成状況	取り組み状況			
電力使用量の削減	○	○			
二酸化炭素排出量の削減	○	○			
化石燃料の削減	○	○			
廃棄物の削減	◎	○	雑紙のリサイクルで大幅削減(-18.6%)		
水使用量の削減	○	○	かなり削減(-16.1%)		
印刷用紙使用量の削減	○	○			
化学物質の適正管理	△	△	緊急時訓練・記録が不十分		
グリーン購入の推進	○	○			
環境教育の推進	○	○	実績を確認		
大学周辺の環境美化	○	○	吸い殻対策を徹底		
<p>○達成できた(取り組んだ) △一部達成できた(一部取り組んだ) ×達成できていない(取り組んでいない)</p>					
[周囲の変化の状況]		[その他の環境経営システムの各要素]			
<p>地域創成農学部は2年次生までが在籍し、外国語学部は1年次生のみが在籍している。来年度より、地域創成農学部の3年次生において実験系科目が開講される。</p>		<p>環境経営システムに現状と合致しない項目(4条3. 環境管理責任者の役割)の見直しを行う。</p>		<p>[環境経営システムの各要素]</p> <p>・大学組織の現状に合わせて、変更見直しの必要がある。</p>	
				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	

吉備国際大学
環境活動レポート 2014年度版

2015年9月25日 発行

編集：環境マネジメント委員長：小田 淳子
(社会科学部経営社会学科 教授)
E-mail oda618@kiui.ac.jp
TEL&FAX 0866-22-9387

発行：吉備国際大学 環境マネジメント委員会
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL 0866-22-9454(代表)



高梁キャンパス

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL.0866-22-9454(代表)



岡山キャンパス

〒700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5
TEL.086-207-2911(代表)



南あわじ志知キャンパス

〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1
TEL.0799-42-4700(代表)



吉備国際大学
Kibi International University